

令和4年度事業計画(美術館)

自 令和4年4月1日

至 令和5年3月31日

公益目的事業2(展覧会事業)

1. 「北斎展」の開催

- ア. 名称 「大英博物館 北斎一国内の肉筆画の名品とともに」
- イ. 会期 令和4年4月16日(土)～令和4年6月12日(日)
- ウ. 概要 江戸時代後期を代表する浮世絵師・葛飾北斎。世界で最も著名な日本の芸術家の一人である北斎は、国内外で高い人気を誇っている。中でも大英博物館には、複数のコレクターから入手した北斎の優品が多数収蔵されており、同館が所蔵する北斎作品を中心に、国内の肉筆画の名品とともに、北斎の画業の変遷を追う。
- エ. 展示
- ・富嶽三十六景 神奈川沖浪裏 天保元～4年(1830-33)頃 大英博物館蔵
 - ・為朝図 一幅 江戸時代 文化8年(1811) 大英博物館蔵
 - ・弘法大師修法図 一幅 江戸時代 弘化年間(1844-47) 西新井大師總持寺蔵
- オ. 備考 共催：大英博物館、朝日新聞社 巡回：無し

2. 「歌枕展」の開催

- ア. 名称 「歌枕—あなたの知らないこころの風景—」
- イ. 会期 令和4年6月29日(水)～令和4年8月28日(日)
- ウ. 概要 古来、日本人は自らの思いを美しい風景に託し和歌に表してきた。それはやがて特定の土地に決まった情緒が結びつき、実際の風景を知らずともその思いを共有できる歌枕となった。和歌が身近でない今こそ、様々な優品を通じて絵画や工芸の意匠に息づく歌枕の世界を再び共有し、人々と共感を図る。
- エ. 展示
- ・重要文化財 小倉山蒔絵硯箱 一合 室町時代 15世紀 サントリー美術館蔵
 - ・重要文化財 寸松庵色紙「ちはやふる」 伝紀貫之 一幅 平安時代 11世紀 京都国立博物館蔵
 - ・吉野龍田図 六曲一双 江戸時代 17世紀 根津美術館蔵
- オ. 備考 共催：朝日新聞社 巡回：無し

3. 「大阪市立美術館名品展」の開催

- ア. 名称 「美をつくし—大阪市立美術館コレクション(仮称)」
- イ. 会期 令和4年9月14日(水)～令和4年11月13日(日)
- ウ. 概要 昭和11年(1936)に開館した大阪市立美術館は、日本・中国の絵画や書蹟、彫刻、工芸など幅広いコレクションを有しその数は約8,500件を数える。令和4年(2022)秋から始まる大規模改修工事を機に、同館が誇る東洋美術の精華を一堂に展示しその魅力を伝える。
- エ. 展示
- ・重要文化財 四季花鳥図屏風 狩野宗秀 六曲一双 桃山時代 16世紀

- ・重要文化財 潮干狩図 葛飾北斎 一幅 江戸時代 19世紀
- ・晩秋 上村松園 一面 昭和18年(1943)
(上記いずれも大阪市立美術館蔵)

オ. 備考 共催：毎日新聞社 巡回：福島県立美術館、熊本県立美術館

4. 「智積院展」の開催

ア. 名称 「智積院の名宝」

イ. 会期 令和4年11月30日(水)～令和5年1月22日(日)

ウ. 概要 京都・東山の真言宗智山派の総本山智積院には、桃山時代の巨匠・長谷川等伯(1539～1610)率いる一門によって、豊臣秀吉の子鶴松の菩提寺である祥雲寺に描かれた金碧障壁画群が大切に守られてきた。誰もが知る国宝「楓図」「桜図」「松に秋草図」が寺外で初めて同時公開される貴重な機会になるとともに、智積院に伝わる仏教美術をはじめとした名宝も一堂に集め公開する。

エ. 展示

- ・国宝 楓図襖 長谷川等伯 四面 桃山時代 16世紀
- ・国宝 桜図襖 長谷川久蔵 五面 桃山時代 16世紀
- ・国宝 松に秋草図屏風 長谷川等伯 二曲一双 桃山時代 16世紀

(上記いずれも京都・智積院蔵)

オ. 備考 共催：総本山智積院、朝日新聞社 巡回：無し

5. 「サントリー美術館名品展(館外展)」の開催

ア. 名称 「秋田朝日放送開局30周年記念特別展 サントリー美術館名品展」(仮称)

イ. 会期 令和4年7月16日(土)～令和4年9月11日(日)

ウ. 概要 秋田朝日放送の開局30周年を記念し秋田県立近代美術館にて開催。館外での名品展は2014年以来、約8年ぶりの開催となる。秋田にゆかりの深い重要文化財「佐竹本・三十六歌仙絵 源順」をはじめ絵画、工芸、ガラス等、当館を代表する作品の展示を通じて秋田の人々に当館コレクションの魅力と価値を伝える。

エ. 会場 秋田県立近代美術館

オ. 展示

- ・重要文化財「佐竹本・三十六歌仙絵 源順」 一幅 鎌倉時代 13世紀
- ・重要文化財「四季花鳥図屏風」 六曲一双 室町時代 15正規
- ・切子藍色被船形鉢 江戸後期 19世紀中頃

(上記いずれもサントリー美術館蔵)

カ. 備考 主催：サントリー美術館展実行委員会
(秋田県立近代美術館、AAB秋田朝日放送株式会社)

収益事業

1. 物販事業

企画展や収蔵品をモチーフにしたオリジナルグッズの展開に加え、日々の生活に彩りを添える

商品を季節ごとに投入して店舗の鮮度を維持し、お客様に繰り返し足を運んでいただけるショップを目指す。

2. 飲食事業

「加賀麩 不室屋」の歴史・伝統を活かした食事・甘味メニューに加え、季節感を取り入れたメニューを展開し、お客様層の拡大およびリピーターの増加を図る。また物販においても手土産・贈答にご利用いただける価格帯の詰め合わせを充実させ、飲食事業の売上の底上げを図る。

3. 貸室事業

「茶室」の貸出により収益を得るだけでなく、当館ならではの価値の訴求に寄与し、結果として日本のお茶文化の普及にも貢献していく。

以 上